



令和2年度 事業計画書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)



学校法人 九州国際大学

(令和2年3月26日 理事会)



目 次

I. 基本方針	1
II. 令和2年度予算概要	3
1. 教育活動収支.....	4
2. 教育活動外収支.....	5
3. 特別収支.....	5
4. その他.....	5
III. 事業計画・方針	
[学校法人]	
1. 人事関係.....	6
2. 施設拡充関係.....	6
3. 財務関係.....	8
4. 情報公開.....	8
[九州国際大学]	
1. 教育概要.....	9
2. 教育支援.....	11
3. 学生支援.....	13
4. 就職支援.....	14
5. 研修事業.....	15
6. 地域貢献.....	15
7. 国際交流.....	18
[九州国際大学附属高等学校]	
1. 教育概要.....	19
2. クラス編成.....	20
3. 進路サポート体制.....	21
[九州国際大学附属中学校]	
1. 教育概要.....	23
2. 教育活動の特色.....	23
3. 教科目標.....	24
4. 教育設計.....	24

I. 基本方針

[学校法人]

学校法人九州国際大学の創立は昭和 22 年です。以来、“北九州地域の文化向上を目的とし、塾的精神により知識を授けるとともに、誠実有為なる人材を養成する”という建学の精神は今日まで脈々と受け継がれてきています。

本学園の使命・役割は、今日の私立学校を取巻く環境がますます厳しいものへと変化していく中で、地域に立脚し地域に有為なる最高学府を擁する教育機関として、今一度、本学園の原点である建学の精神に立ち返り、余すところなくその精神を汲み現代的変容の中にも先取りの精神をもって常に次世代を見据えつつ、その本分を如何なく発揮していくことにあります。その上で、本学園で働く教職員全員が本学園の新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『学校法人九州国際大学 第三期中期経営計画（2019 年度～2023 年度：5 年計画）』を策定しております。

第三期中期経営計画は、「九州国際大学中期計画」、「九州国際大学附属高等学校一目指す学校像」、「九州国際大学附属中学校教育改革プラン」を中核に据え、各学校での自己点検・自己評価等による課題の認識やその解決や展望を踏まえたものです。

経営理念に基づき、後述の各戦略それぞれについて目標を設定し、目標の可視化を実施するとともに、毎年度末に各目標の達成状況を確認していきます。

このことにより、次なる業務の行動目標を明確に定め、目標達成に向けた組織的対応を実施するよう業務の工程管理（マネジメント）を適切に実施していきます。

- | | |
|------------|--|
| 戦略Ⅰ | [教育力]：地域に根ざし、地域に必要とされる教育の実践 |
| 戦略Ⅱ | [研究力]：地域課題に基づく研究活動の実施 |
| 戦略Ⅲ | [社会力]：教職員人材等の地域活動への参加 |
| 戦略Ⅳ | [募集力]：本気で学ぶ生徒・学生の獲得を目指した定員充足率の向上 |
| 戦略Ⅴ | [経営力]：経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行 |

今後の経営改善計画の実行にあたっては、財務的な裏付けによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。特に、学校教育の根幹である教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗の管理に取り組んでいきます。

[大学・大学院]

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

大学の学部は、法学部 法律学科、現代ビジネス学部 地域経済学科・国際社会学科の 2 学部 3 学科体制で教育研究活動を展開しており、大学院は、令和 2 年度に企業政策研究科を募集停止し、法学研究科の 1 研究科体制で教育研究活動を展開しています。

大学部門では、教育研究活動及び地域貢献活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって『第三期中期計画（2016 年度～2020 年度）』を推進しており、卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう教育基盤を更に強化し、「就業力」、「学士力」を育ててまいります。

[中学校・高等学校]

附属中学校・附属高等学校は、高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州地域から注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えております。授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

II. 令和2年度予算概要

令和2年度 学校法人九州国際大学 事業活動収支予算書

(単位:百万円)

科目		予算	備考	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,836	
		手数料	75	入学検定料等
		寄付金	0	
		経常費等補助金	1,136	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	65	寮、エクステンション講座等の補助活動収入
		雑収入	207	施設設備利用料等
		教育活動収入計	4,319	
	支出	人件費	2,248	
		教育研究経費	1,409	
		管理経費	383	事務管理費、学生募集経費
		徴収不能額等	0	
教育活動支出計		4,040		
教育活動収支差額		279		
外収支	収入	教育活動外収入計	4	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	0	借入金等利息
	教育活動外収支差額		4	
経常収支差額		283		
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		施設設備寄付金	10	
		施設設備補助金	5	
		特別収入計	15	
	支出	特別支出計	0	
特別収支差額		15		
〔予備費〕		30		
基本金組入前当年度収支差額		268	旧会計基準の帰属収支差額	
基本金組入額合計		▲ 300		
当年度収支差額		▲ 32	旧会計基準の消費収支差額	
前年度繰越収支差額		▲ 6,099		
基本金取崩額		0		
翌年度繰越収支差額		▲ 6,131		
(参考)				
事業活動収入計		4,338		
事業活動支出計		4,070		

※1) 平成25年4月22日に文部科学省令第15号「学校法人会計基準」が公布され、40年ぶりに会計基準が改正されました。これに伴い、平成27年度より、新たな会計基準に沿った計算書類で経理処理等を実施しています。上記事業活動収支計算書は、旧会計基準における消費収支計算書にあたるもので、単年度の収支を3つ(教育活動収支・教育活動外収支・特別収支)に区分して示したものです。

※2) 単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

「産業構造や経済社会の変化」、「グローバル化」、「少子高齢化」など、学校法人の経営にとって大きな環境の変化を迎える中、本学園においては、経営力を一層強化し、継続的・安定的に質の高い高等教育を提供することにより、学生・保護者はもとより地域・社会の信頼と支援を得ていくことが重要です。文部科学省の教育改革は、「2040年度に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)平成30年11月16日」等を踏まえて、様々な政策提言や法改正が行われています。令和2年度の予算は、それらの教育改革の方向性をもとに事業を点検し、計画を見直すことを前提に編成しております。

大学・大学院部門は、平成29年に学部改組によって新設された現代ビジネス学部(地域経済学科・国際社会学科)が完成年度を迎える年となり、新たな体制の実効性について総括するとともに、次期認証評価受審を念頭に学修成果の可視化など、教育の質向上に向けた取り組みを強化します。

中学校・高等学校部門は、「北九州の私学の雄」として、進学校たるブランド力を維持するため、生徒に提供する教育の質の向上が求められており、高大接続改革に基づく学習指導要領の改訂や教育の情報化加速プラン等を踏まえICT教育を加速し、学校改革の「核」として捉え競争力の向上に努めます。

1. 教育活動収支

(1) 教育活動収入

① 学生生徒納付金

入学定員確保を最重要課題として募集活動に取り組みます。また、大学では教育の質保証システムを構築し、中退予防等を含む教育支援に取り組むことで収容定員充足率の維持・向上に努め、安定的な収入を確保します。

② 経常費等補助金

大学部門における私立大学等経常費補助金については、近年、文部科学省の政策誘導型補助に比重を置いた採択型の補助事業が展開されているため、補助金収入を保守的に試算しております。教育の質保証システム構築のためにも、「私立大学等改革総合支援事業（採択制）」など、教育改革の原資となる補助事業の採択に努めてまいります。

また、令和2年4月1日に「大学等における修学支援に関する法律」が施行され、同法に基づき「高等教育の修学支援新制度」が開始されます。新制度では、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学部学生等を対象として授業料等減免制度及び給付型奨学金の拡充を行うこととしています。この国の支援金は、各学校を通じて対象となる世帯に給付されることになるため、学校法人の補助金収入が増加することになります。また、同額が後述の教育研究経費の奨学費で処理されることとなります。(※1)

高等学校・中学校部門における福岡県私立学校経常費補助金は、一定の在 student 数を維持しているため、前年並みの収入を見込んでおります。

③ 付随事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画し、学園のプレゼンスを高めていきます。また、その他の外部資金（学外研究等）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進することで研究費調達が多様化を図ります。

高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、県外から本校に入学し、クラブ活動に力を注ぎながら勉学に励む生徒が多数在寮しています。寮監はもちろん、附属学校の教職員をあげて日常生活や修学上の支援を実施しており、一定の稼働率を保持しています。

④ 雑収入

施設設備利用料について、学園の PR を兼ねて広く周知し、学校法人の財政基盤の一助となるよう外部の利用を促進いたします。

(2) 教育活動支出

① 人件費

要員・人件費の最適化実現と人的生産性を最大化することを念頭に置き、その上で「前年度賞与支給率の維持」、「非常勤講師経費などの削減」を図り、総額人件費の管理に努めていきます。

② 教育研究経費及び管理経費

予算編成方針に基づき経費等を積算し、教育研究経費及び管理経費は増加しています。主な要因は、(※1) で前述した「高等教育の修学支援新制度」に伴う奨学費の増加です。

また、大学学生寮について、現在の紅梅寮（北九州市八幡西区紅梅四丁目）を令和3年3月に

閉鎖する予定であり、これに替わる交換留学生用の住居（賃貸契約）を手当てし、交換留学生の受け入れを円滑に運用できるよう努めてまいります。その他、大学の「図書館システムリニューアル費用」、「Web 出願システム導入費用」等を新規事業として予算計上しています。

高校部門では、ICT 教育の進展及び高大接続改革に基づく入試制度改革への対応に向けて、「教務システムのカスタマイズ」を予定しております。

2. 教育活動外収支

(1) 事業活動収入

① 受取利息・配当金

近年は、退職給与引当特定資産の大部分を定期預金で運用しています。減価償却引当特定資産においても安全性を考慮して普通預金・定期預金・地方債等により運用しています。これら特定目的資産の運用については、引き続き銀行預金中心の運用を行い、安全性・流動性を重視します。

3. 特別収支

(1) その他の特別収入

① 施設設備寄付金

安全で充実した教育環境と質の高い教育内容を提供するためには、より一層の安定した財政基盤の確保が求められます。学園のさらなる魅力づくり及び持続的発展のため、平成 30 年 6 月に特定公益増進法人の更新手続きを行い、大学、高校及び中学の教育研究用施設設備及び環境整備を目的として寄付金募集事業を実施しております。

4. その他

(1) 施設設備関係

施設設備等の保全・整備については、法令順守や学生生徒の安心安全を確保するものを最優先として実施します。その上で、質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けたファシリティ・マネジメントを強化いたします。

また、費用対効果の分析に基づく運用改善、エネルギー対策等の投資効果を考慮した実効性ある施設設備更新計画を策定し、サステイナブル・キャンパスの形成に向けた対策を講じていきます。

Ⅲ. 事業計画・方針

[学校法人]

1. 人事関係

(1) 組織改革・人事体制

多様化する業務に対応していくため、既存の業務を整理し、事務機能の効率化を図るため、組織の見直しを行います。職員については、事業規模に見合った適正な職員数及び年齢構成にするため、段階的に是正を行い、「有期雇用契約職員の業務及び雇用形態の見直し」、「新卒者の定期採用及び即戦力となる人材の中途採用」等により人材の確保に努めます。

(2) 働き方改革への取組み

平成 30 年 7 月に「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が公布されたことから、職員の勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方を実現するため、実態の把握と併せて学校及び教育職員が担う業務の在り方を見直し、長時間労働の是正に向けて検討を行います。高等学校及び中学校においては、授業を行う学期中と夏休み等の休業期間との業務の繁閑の差を踏まえて、一年単位の変形労働時間制の導入を目指します。

(3) 職場環境の安全・衛生保持

労働安全衛生法に基づき、本法人の職員の安全及び衛生に関する事項について、各事業場（平野キャンパス・枝光キャンパス）で安全衛生委員会を開催し、「職員の健康保持増進」、「安全な職場環境の保持・改善」、「労働災害の防止」等について継続的に検討を行っています。職員の健康保持については、健康診断及びストレスチェックの結果等に基づき、産業医との連携を図りながら、当該職員の実情を考慮したうえで必要な措置を講じます。

2. 施設拡充関係

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	平野キャンパス 各棟	基幹ネットワーク機器更新（第一期）
	平野記念館アリーナ	デジタイマ・AED トレーニングユニット
	平野記念館 各階	スポット型クーラー（10 台）
	3 号館	学生証発行機
	メディアセンター図書館	図書館システム一式
	1 号館・平野記念館アリーナ	AED セット
枝光キャンパス (高等学校)	D 棟普通教室前	生徒用ロッカー（7 台）
	生物化学教室 1・2、書道教室	丸椅子（234 脚）
	化学教室 1・2	書画カメラ
	第 1 体育館	緞帳一式・折りたたみ椅子（200 脚）台車（4 台）
	武道館	卓球台
	サーバー室	AD サーバー
枝光キャンパス (中学校)	職員室	A3 カラープリンター

(2) 施設整備関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	平野キャンパス 各棟	窓開閉不具合箇所補修工事
	平野キャンパス 各棟	屋内消火栓ホース取替工事
	平野キャンパス 各棟	電気錠取替工事
	研究棟	エレベーター不具合箇所補修工事
	メディアセンター	屋上防水補修工事
	平野記念館	湧水ポンプ取替工事
枝光キャンパス (高等学校) (中学校)	第3体育室 跡地	第3体育室 代替施設建築
	A棟⇒第1体育館	高圧ケーブル取替工事
	第1体育館⇒第2体育館	高圧ケーブル取替工事
	高校棟 大階段下	門扉設置工事
	共用棟 2階	分電盤更新工事
	A棟⇒E棟	窓開閉不具合箇所補修工事
	A棟⇒E棟	エレベーター不具合箇所補修工事
	C棟 食堂	壁紙補修工事
	C棟⇒E棟	天井ボード取替・廊下壁補修工事
	第2グラウンド横テニスコート	人工芝張替工事
	第1体育館前	外階段塗装工事
	全建物対象	雨漏り補修工事
	全建物対象	消防設備不具合箇所修理工事

(3) 情報・通信機器整備等

① 平野キャンパスの基幹ネットワーク機器更新（第2期）

平野キャンパスの基幹ネットワーク機器更新については、キャンパス全域に及ぶ大規模な事案であるため複数年度にわたって実施しており、令和2年度はその第2期となります。

実施内容は、現在サーバー上で稼働しているファイアーウォール、フィルタリング等の機能を最新のアプリケーション製品に移行すると共に、DNS、メール等のサーバー機能をオンプレミスの仮想プラットフォーム上に集約します。これにより、通信パフォーマンスの高速化とセキュリティの強化を図りつつ、機器集約による運用コスト削減とメンテナンス性向上を実現します。併せて、SINET回線を活用したマルチホーム環境を構築し、今年度導入した無線LAN環境によって一層求められているネットワーク通信量増加への対応、さらには将来的にモバイルPC必携化となった場合でも実用的に運用可能な通信環境を整備し、教育現場におけるICT活用を支援します。

② 枝光キャンパスの教育用・業務用サーバー機器更新

現在、付属学校（高等学校・中学校）の教育系および業務系ネットワークで使用しているWindowsサーバー機器群は導入から年数が経過し旧式化が進んでいるため、最新のシステムを搭載した仮想サーバーへの更新を図ります。これにより、今年度から実施されている生徒へのタブレットPC必携化に伴う管理システムの適切かつ効率的な運用に対応し、付属校におけるICT教育環境のさらなる円滑化を実現します。

3. 財務関係

一般経費の予算編成に関しては、事業計画の効果予測を検証し根拠に基づき予算積算しています。建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得に関しては、優先度を勘案し予算化しています。資産運用については、引き続き定期預金等の安全性の高い運用に努めていきます。また、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金は順調に返済しており、当該年度の返済額も約定日までに返済します。

これらを総じて、適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙すると同時に、学園の財政安定化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

4. 情報公開

私立学校法第 47 条及び私立学校法の一部を改正する法律（平成 16 年法律第 42 号）等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。また、「学園情報誌(キュウトビ)」等を発刊し、本学園の取り組みや財務情報、学生活動を紹介するなど、広く情報提供するとともに「大学ポートレート(私学版)」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

また、新しい教育・経営ビジョンの実現を目指して、実践活動を行うための指針として『第 3 期中期経営計画(2019 年度～2023 年度：5 年計画)』を策定・公表し、公教育を担う法人としての責務を果たしていきます。

[九州国際大学]

1. 教育概要

《教育改革の方向性》

大学の教育の質の向上、ガバナンス改革の推進等の背景を受けて、文部科学行政の施策が加速するとともに大学への社会からの期待は高まっています。

産業界から求められる人材を育成するためには、より一層の教育改革が必要であることから、ナンバリングや履修系統図を意識して、科目の配置や体系化に向けたカリキュラムを検討し、“地域社会から必要とされる人材”の育成モデル構築に向けた改革を進めてまいります。

(1) 法学部 / 法律学科

法的なものの考え方をベースにした、あらゆる問題に柔軟に対応できるジェネリックスキル（汎用的技能）は、どのような時代にあっても不可欠なものです。グローバル化が進み、先の読めない現代社会では、ますます必要な能力といえます。アクティブな学びで、理論と実践のバランスのとれた実社会で活躍できる人材を育てていきます。

[法律学科]

◆ リスクマネジメントコース —警察官や消防官など公務員を目指す—

警察官、消防官、行政職員に必要な危機管理の考え方や手法を学びます。行政・企業等におけるリスクが増大するなか、将来性の高い分野です。

◆ キャリアコース —組織運営のスペシャリストを目指す—

学部設立した法人組織に参加し、学生自らが学んだ法律等を使い、実際に組織を運営することを通じてビジネスに必要な組織運営能力を育成します。全国でも例のない画期的なコースです。

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科（平成29年度開設）

グローバル化が進む現代社会では、国はもとより地方の企業や自治体においても、その対応が急務となっており、それぞれの自治体では人口減少や高齢化に対応するために、地域の特性を活かした新たな「まち・ひと・しごと」の創生が求められています。そのような時代のニーズに応えるために新設したのが、現代ビジネス学部です。

基礎となる経済の知識や語学力だけでなく、グローバルな視点とローカルな視点をあわせ持つことで、さまざまな課題に柔軟に対応し、解決へと導くことができる人材を育てていきます。また、これまで以上に実践型のプログラムを取り入れることで、多様な人と協働できる高いコミュニケーション能力を養います。

[地域経済学科]

◆ 経済コース —経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる—

多領域にわたる経済の知識を獲得し、あらゆるビジネスシーンで活用できる力を養います。

◆ 経営コース —ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる—

経営の主要3分野（経営・会計・流通）の理論を総合的に学ぶことで、企業のマネジメントに携わることができる人材を育成します。

◆ **地域づくりコース** —地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる—

建学以来、地域に根ざし、地域とともに歩みつづけてきた九国大ならではの専門コースです。地域活性化をテーマに、農村体験やイベントの企画運営など地域と連携した活動を通じて、地域課題を解決できる企画力と実践力を培っていきます。

◆ **観光ビジネスコース** —観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる—

今後ますます成長産業として期待される「観光」をキーワードに、課題解決型の学びと実践的なプロジェクトで、あらゆる業界で即戦力となる力を養います。

◆ **スポーツマネジメントコース** —スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる—

ビジネスマナーや経済学、経営学の基礎知識を習得しながら、スポーツ関連ビジネスに求められる知識やスキルを磨いていきます。地域のスポーツチームなどと連携したフィールドワークが多いのが特長です。地域とつながりながらスポーツ体験を将来の仕事に活かしたい人、指導者になりたい人にも最適なコースです。

[国際社会学科]

◆ **英語コース** —国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる—

「聞く」「話す」「読む」「書く」力を高め、「使える」英語力の獲得を目指します。学んだことを実践・発展させるために海外体験を必修化し、新たにカナダとフィリピンに実習先を開拓します。英語を活かした職業に就くためにも必要な知識も習得させ、国際社会で活躍できる総合力を養います。

◆ **ハングルコース** —韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる—

日韓を中心に国際ビジネスの現場で活躍できる人材、地域の魅力を広くアジアに向け、発信できる人材を育てます。人的交流が盛んな隣国への知識を深め、実践的な学びを通して韓国語を修得し、交換留学や海外実習などで国際感覚を磨きます。

◆ **国際コース** —現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる—

国際的な視野をもち、異文化への深い理解に根ざして他者と協働しながら、国内外のさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。異文化理解や新興国・途上国について知識を深め、体験的な学習を通して国際的な視野を広げます。

(5) 大学院 / 法学研究科・企業政策研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

企業政策研究科では、経営実務に関する高度な知識、企業を取り巻く外部環境にかかわる専門知識をもつ人材の育成を目指します。

2. 教育支援

(1) 入学前教育プログラム

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、入学予定者に対し「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。今年度より新たに e ラーニング教材による基礎学力ドリルを導入し、入学前から 1 年生段階での初年次教育のツールとして活用することで、より効果的な教育支援を実施していきます。

また、入学前の不安を解消し、安心して学修できるよう学校推薦型選抜（旧推薦入試）・総合型選抜（旧 AO 入試）入学予定者を対象に「入学前教育スクーリング」を実施いたします。

(2) 学士課程教育の体系化

ディプロマ・ポリシーと各科目到達目標との関連性、学習内容の順次性、科目間の内容の関連性、必修・選択科目の区分など、多様な要素を表現した「カリキュラムマップ」、「ナンバリング」を作成しています。教え手である教職員と学び手である学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有することにより、学生が 4 年間で学ぶ道のりを俯瞰できるよう取り組んでいきます。

また、現行のカリキュラム（教育課程表）が適切に機能し、ディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成できているかなど、アセスメントポリシーに基づき多面的かつ総合的に点検・評価を行います。教員と学生双方が、授業を通してどのような力が身についたかを評価し、その評価の下にどの部分が基準を満たしたのか、また、どの部分が弱いのかを洗い出し、次年度の学修改善に繋げ、さらなるカリキュラムの構築に努めていきます。

(3) 初年次教育

学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組んでいます。授業科目の共通教育科目の基礎科目に必修科目として、入門セミナーⅠ・Ⅱを配置し、大学で学ぶために必要となる読解力や論理的思考力等の基礎的な学修スキルや問題発見・解決能力やコミュニケーション能力等の社会人基礎力を身につけていきます。この授業は、大学における人間関係や居場所の構築のための役割も果たしています。

また、初年次教育の一環として、新入生研修（FM：フレッシュャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）を実施し、基礎学力や目的・職業意識の醸成に寄与していきます。

(4) 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生が、学生生活の自己管理のために授業での学習成果を振り返り、“学んだこと”、“気づいたこと”、“知り得たこと”を「学生ポートフォリオ（Assessor：アセスメンター）」に記録します。その記録をもとに、ゼミ担当教員及び職員がアドバイス（記録）を行います。このようなインタラクティブ（双方向）な活動を継続的に実施し、具体的に“どのような力が身についたのか”、“どの力がどの程度向上したのか”、学生自身が視覚的に把握することで、さらなる成長を促すよう取り組んでまいります。

(5) TOEIC 受験支援

現代ビジネス学部国際社会学科の学生を対象に、大学から TOEIC Listening & Reading の公

開テスト団体一括受験申込を行い、年1回無料でTOEICを受験できるよう支援しています。大学の評価だけではなく、公的な試験で英語力が認識できるよう取り組みます。

(6) PROG テスト（外部評価試験）の導入

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル（汎用的な技能）」を測定するPROGテストを全学部を導入しています。PROGテストは、基礎力を「リテラシー^(注1)」と「コンピテンシー^(注2)」の2つの側面から測定するテストです。このPROGテストの結果を参考に、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

(注1) 「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものです。

(注2) 「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。

(7) 実践型教育の推進

実社会と協働した実践型教育を行い、社会人に不可欠なソーシャルスキルが身につくだけでなく、自ら体験することで知識を学ぶ必要性を実感でき、学びのモチベーションアップにも繋がっていきます。学生が能動的に学ぶ学習法としてアクティブ・ラーニング^(注3)を推進し、教育の充実を目指します。

また、社会実習、地域連携活動や海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校での語学実習、外国事情研修、国内外でのボランティア活動や企業実習等を開講します。

(注3) 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

(8) 基礎教育センター教育支援

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、入学予定者に対し「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。令和元年度より導入したeラーニング教材「キョウドリル」を利用し、入学前では「ベーシック」、1年生段階で「スタンダード」の基礎学力ドリルに取り組み初年次教育として活用することで、より効果的な教育支援を実施していきます。

また、入学前の不安を解消して安心して学修できるよう、学校推薦型選抜（旧推薦入試）・総合型選抜（旧AO入試）の入学予定者を対象に「入学前教育スクーリング」を実施し、大学の学修に関する内容の紹介、大学の講義を体験できる機会を設けています。

(9) ビブリオバトル教育支援

ビブリオバトルとは、参加者が各々5分で本を紹介し、読みたくなった本（チャンプ本）を投票して順位を決める書評会です。本学では、ゼミ教育の一環として、ビブリオバトルを活用した教育支援を実施しており、各種大会への出場を目指して継続的に実施していきます。

(10) ラーニングコモンズ

学生の自律的な学習を支援する目的で各大学においてラーニングコモンズが展開され、主体的・創造的な学びのスタイルが推進されています。本学でも、ラーニングコモンズを運営しており、複数の利用者が集って図書館資料を用いて議論を進めていく「教育の場」を提供しています。

学修効果を向上するための活用方法やゼミ教育の場としてのあり方を研究しつつ、ビブリオバトル等のプログラムを実践する場としても活用していきます。

3. 学生支援

(1) 課外活動の活性化

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）との連携を図り、新入生オリエンテーションの場を活用して各団体の活動紹介を実施し、体育系サークルや文化系サークルへの入部を促進していきます（目標：サークル加入率50%）。

また、大学スポーツの振興を目的とした一般社団法人大学スポーツ協会「UNIVAS^(注4)」の趣旨に賛同し、その設立背景にある社会的意義を適切に解釈し、体育系サークル活動の支援に取り組んでまいります。これらの取組みの一環として、体育系サークルの指導者、顧問に対する研修会、学生への活動についてのアンケート等を実施し、学生生活の充実と問題対策・予防に努め、サークル活動の活性化を目指していきます（目標：研修会開催1回/年、アンケート実施1回/年）。

体育会本部では、「多目的グラウンド（**KIU Field**）^{クイアイユー フィールド}」や「体育館アリーナ（**KIU DOME**）^{クイアイユー ドーム}」を活用した学長杯スポーツ大会などを企画・開催し、学生の課外活動を積極的に支援していきます。

大学祭実行委員会との連携を図り、大学祭への一般学生並びに教職員の参加促進と企画立案を行い、大学祭を盛り上げていきます。

このように、サークル並びに四協団体の活性化と同時に、これら団体の管理運営（イベント運営、事務手続、会計処理等）についても積極的に支援し、自治指導及びトラブル防止に努めていくことで健全かつ活気ある学園づくりを目指していきます。

(注4) UNIVAS (Japan Association for University Athletics and Sport)

日本版NCAA設立準備委員会にて、検討を重ねて参りました大学スポーツに係る大学横断的かつ競技横断的統括組織「一般社団法人 大学スポーツ協会」（通称UNIVAS）が、平成31年3月1日に設立されました。

(2) 女子学生への支援

女子学生の交流促進のための「女子部屋」は、現在、女子学生の憩いの場として活用されています。新学期の初めに「女子部屋」を広く知ってもらうため、新入生に向けてイベントを企画していきます。年間を通してやわらかカフェや保健室と連携を図り、様々な企画を提案していきます（目標：イベント開催4回/年）。女子学生の交流が活発化し、主体的な活動が広く展開されることで、大学の魅力発信に繋がっていきます。

(3) 学生のニーズ調査

学生満足度を向上させることを目的として、学生自治会主催の連絡協議会（春学期：2回、秋学期：2回、計4回）を開催し、四協学生（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）の代表との意見交換を通じて学生のニーズを聴取します。

四協学生を中心とした学生団体と大学執行部との学長懇談会を年に1回開催し、課外活動の報告、大学への要望等を直接聴き取る機会を設けて、改善点に取り組みます。

また、従来から継続して取り組んでいる学生生活満足度アンケートを実施し、学生のニーズの把握に努めていきます。アンケート結果については情報公開するとともに、大学に対する要望等を一つひとつ実現することで学生の満足度向上を目指します。

(4) 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問や相談に応じます。また、これらの相談会以外に就職関連の講演会などを開催することで保護者に必要な情報を提供していきます。

4. 就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE」

KIU-SPICE (Kyushu International University Support Program In Career Education の略称) は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」をキャリア形成において具体化を図り、大学入学からの 4 年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業によるキャリア教育と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を受けるための各種就職活動支援講座とインターンシップ等により構成されるキャリアサポートを統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組みは、学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・発展的に取り組む事業となっています。

令和元年度は、これまでの「KIU-SPICE」を基軸としつつ、正課授業のキャリア教育科目を就職環境に即した内容へと発展させ、「キャリアデザイン」、「キャリアプラン」、「キャリアプラン実践」の科目の中で体系的に業界研究や自己分析、履歴書及び面接指導等を取り入れ、就職活動に直結する実践的な内容へと再構築しました。また、昨今、就職活動を取り巻く環境が顕著に地元志向へとシフトしていることを踏まえ、キャリアプラン実践科目の中で地元企業の採用担当者をお招きし、直接企業の強みを伝えるなどの取組みも導入しています。令和 2 年度は招聘する企業をさらに増やし、地元産業界の構造や特色について、それぞれの業界の視点から紹介していただく予定です。

北九州商工会議所と連携した低学年向けインターンシッププログラムにも引き続き重点を置き、体験型インターンシップをベースにキャリアプラン科目へと段階的に教育することで入社後のミスマッチを抑制する働きを期待しています。

その他、教職員と保護者が本学の求人情報をリアルタイムで閲覧することができるシステムとして、求人検索 NAVI システム「就職支援 NAVI システム」は、大学生だけでなく教職員や保護者の情報ツールとしても役立てられています。これらのツールを大いに活用して、学生、保護者、大学の三者が相互に情報を共有し、学生の就職活動を支援する仕組みが構築されることで、大きな成果が期待できます。

このように、年々早期化する就活スケジュールと地元企業への就職促進に向けた取組みに対応するため、KIU-SPICE はアップデートを続けています。

(2) エクステンションセンターによるキャリア支援

エクステンションセンターでは、資格取得講座、就職支援・スキルアップ講座、教養講座、その他提携講座など、学生の学習ニーズにあった各種講座を企画し開講しています。令和 2 年度は、公務員、公的・民間資格、国家資格の受験対策講座として 9 講座を予定しており、講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法による高

い合格率の実現を目指します。安価な料金設定のうえ、講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるばかりか、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。さらに、公務員試験受験対策講座（地方上級・国家一般職コース）は、東京アカデミー専門学校との連携の強みを活かし、講座回数を倍増させました。目的意識の高い学生同志と一緒に学ぶことで相互に刺激を受け、必然的にやる気を起こさせる相乗効果も狙え、高い実効性を確保できます。

5. 研修事業

学校法人九州国際大学職員人事規則に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質保証に不可欠な活動になります。FD では「学士課程教育の質的保証」、「アクティブ・ラーニング」、「授業研究」等を中心として、各学部・研究科において実施してきた研修を継続的に展開していきます。

また、授業アンケートの分析結果などを踏まえて、FD 委員会・教務委員会において対策を講じ、授業運営の改善を図っていきます。

SD は、大学の教育理念や3つのポリシー（DP:卒業認定・学位授与の方針、CP:教育課程の編成方針と教育方針、AP:入学者受入れ方針）の見直しのための研修、他大学教職員との教学マネジメントの在り方に関する情報交換会、高等教育政策に関する講演会など、九州国際大学 SD 委員会で研修計画を策定し、定期的実施します。

6. 地域貢献

(1) 地域連携推進助成事業

地域連携センターでは、本学の有する学術的な蓄積（人的資源・知的資産）や教職員・学生等の力を活用して、地域づくりに取り組んでいる団体を支援することを目的とした地域連携推進事業を強化します。

(2) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

地域連携センターと九州国際大学同窓会橘会との共催事業として「市民講座・市民相談」を開催しています。日常生活に関連して発生する法的な諸問題について講義を行い、その後に相談窓口となって市民相談に応じます。また、自営業者に向けたプログラムを組み込むとともに、学生の実践教育の場としても位置づけています。日程は、前期10回、後期10回の開催で、毎月第2・第4土曜日に実施する予定です。

(3) 北九州市民カレッジの共同開催

地域連携センターでは、市民の多様なニーズに対応した学習の機会を提供するため、北九州市（生涯学習センター）事業の「高等教育機関提携コース」に参画しています。受講ニーズを踏まえ、本学教員を中心に講座編成を行い、充実した講座の提供を目指します。

(4) 北九州市年長者大学校穴生学舎シニアカレッジの共同開催

本学地域連携センターと北九州市社会福祉協議会穴生学舎との共催事業としてシニアカレッジを実施します。

本事業は、年長者のニーズに対応した生涯学習の拠点として、その社会参加の促進を目的とし

た研修事業です。受講ニーズを踏まえて講座のテーマを設定し、本学教員を中心としたプログラム編成です。

(5) 「ひとみらい交流ウィーク」への参画

地域連携センターでは、副都心黒崎のにぎわいづくりを目的とした「ひとみらい交流ウィーク」に参画し、『黒崎コムシティ ひとみらいプレイス』を構成する諸団体と協同した事業を実施します。

(6) 九州国際大学「地域連携センター市民講座」の開催

地域連携センターでは、本学の人的資源と知的資産を活用し、地域課題解決も視野にいたれたオリジナル講座を企画して、地域の価値を高めるために貢献します。

(7) 大学コンソーシアム関門事業への参画

本学は、「関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、高等教育機関が地域社会へ貢献すること」を目的として結成された大学コンソーシアム関門に参画しています。当該コンソーシアムでは、関門地域の高等教育機関が相互に連携・協力して各種講座を提供しており、本学教員も講座を提供する予定となっています。

(8) 学生ボランティア活動支援

学生支援室が窓口となり、ボランティアサークルに所属している学生を中心として地域のボランティア活動（前田地区非行防止・防犯パトロール等）に参加しています。地域等からのボランティアの要請に応えるよう各サークルとの連携を図り、積極的な参加を呼びかけています。

また、地域連携センターにおいても、地域からのボランティア要請に応えるよう、本学における地域連携学生ボランティア活動の窓口としての機能強化に努めてまいります。

(9) 前田祇園山笠行事への参画

本学が位置する地元地域では、「さくら祭り（4月）」、「七夕の夕べ（7月）」、「前田祇園山笠巡行・競演会（7月）」、「夕涼み会（8月）」、「ふれあいもちつき大会（12月）」などの祭事がとりおこなわれています。前田祇園山笠の山笠行事は、600年以上の歴史を有し、遠賀川流域圏で古くから展開されてきたと考えられ、北九州市無形民俗文化財に指定されています。本学は、地域に開かれた大学として、教職員及び学生が主体となってこれら行事へ参画し、地元地域との交流を深めながら、地域貢献していきます。

(10) 地域行事への参加と連携

地元地域で開催される市民祭「まつり起業祭八幡」のイベント（ストリートダンス、アカペラ、吹奏楽等）や同祭の清掃活動ボランティアに教職員及び学生が参加します。

また、産学官で組織される地域イベント「つながる絆！八幡」との連携・協力、「北九州市成人式実行委員会」への学生委員参画など、地域貢献に取り組んでいきます。

北九州市が主催する地域行事「北九州マラソン」に多くの市民・学生が参加します。大会ボランティアとして、ペースメーカーやコース運営・整理などにも参加協力をします。

(11) Dream100 作文コンテスト

九州・山口の高校生を対象に「Dream100 作文コンテスト」を実施しています。この事業は開学 80 周年（平成 20 年）に始まり、設定されたテーマに基づいて、高校生の皆さんに 100 文字以内で自由に思いを綴っていただくコンテストとなっています。この企画は中等教育活性化の一助になることを期待した社会貢献事業として継続して実施いたします。

(12) 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域課題（三大都市圏への人口流出等）の背景を受けて、3つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しています。地域の子供たちを地域で育み、地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。

① 出張講義

高等学校からの依頼により本学の教員が高等学校へ出向き、関心の高いテーマでわかりやすく講義を行います。これは高校生の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを育てようと、地域貢献活動の一環として実施しています。

② 高大連携（広域連携）

高等学校から要望された教育テーマに基づいて、本学独自の大学体験プログラムや出張講義を定期的に行い、高等学校と大学による共同で連携教育を行うものです。これまでに 9 校との連携協定を締結しており、今後も本学の活動に賛同くださる学校との教育連携事業等を展開してまいります。

連 携 校		
柳川高等学校	博多高等学校	下関国際高等学校
慶成高等学校	高稜高等学校	開新高等学校
秀岳館高等学校	対馬高等学校	別府溝部学園高等学校

③ 教育連携（地域連携）

北九州市内の高等学校と教育連携を図ることで、地元企業で活躍する人材を地域という枠組みで育成しております。地元の人口滞留を図るとともに地域の活性化を狙いとした取り組みとして、これまでに 10 校と高大教育連携協定を締結し、地元北九州の活性化を目指し、教育連携事業等を展開しております。

連 携 校		
八幡中央高等学校	若松高等学校	北九州市立高等学校
北九州高等学校	小倉西高等学校	中間高等学校
小倉南高等学校	ひびき高等学校	門司大翔館高等学校
八幡南高等学校		

(13) 産学連携事業

地元で立脚した本学は、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、学生の教育・人材育成と活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与するため、地元の企業や団体等と産学連携協定を締結し、地域貢献・地域活性化に取り組みます。

7. 国際交流

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

また、現代ビジネス学部の新設に伴い英語圏の大学との交流を推進するため、シリマン大学（フィリピン）・カルガリー大学（カナダ）と学術交流に関する覚書を協定し、学生を研修派遣しています。

令和2年度は、本学学生の需要が最も高い、交換留学・短期海外留学プログラム（海外語学実習・海外社会実習）に関する協定に向けて、英語圏（オーストラリア・カナダ）及び韓国の大学との交渉を進めてまいります。

また、協定校からの交換留学生について、在学生や教職員との交流を行うことで少しでも早く日本の生活に馴染んでもらえるように、来日直後にウエルカムパーティー（年2回）を開催します。

（主な国際交流事業）

- **交換留学制度** : 協定校（中国・韓国・台湾・インドネシア）への留学（半年又は1年間）
- **認定留学制度** : 海外の大学に留学（半年又は1年間）
- **海外社会実習** : 主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** : 長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・イギリス・台湾・韓国）

[九州国際大学付属高等学校]

1. 教育概要

県内トップの受験者数を集める付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。“九国付”が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中で培われてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。

九国ライフデザインプログラム

～ 4つの側面から生徒の夢をサポート～



「現役合格」を実現する、充実のカリキュラム

1・2年生の間は、難関クラスから進学クラスまで共通のカリキュラムで授業が実施されます。そのため、進級時のクラス入れ替えもスムーズに行えます。問題集やプリント類による演習量や進度は、クラスによって違います。正課授業だけでも、公立高校より多い週35単位を確保。また、より多くの学校設定科目（演習）の導入により、大学入試問題に対応した授業を展開。充実の学習計画で、志望大学への「現役合格」へ導きます。

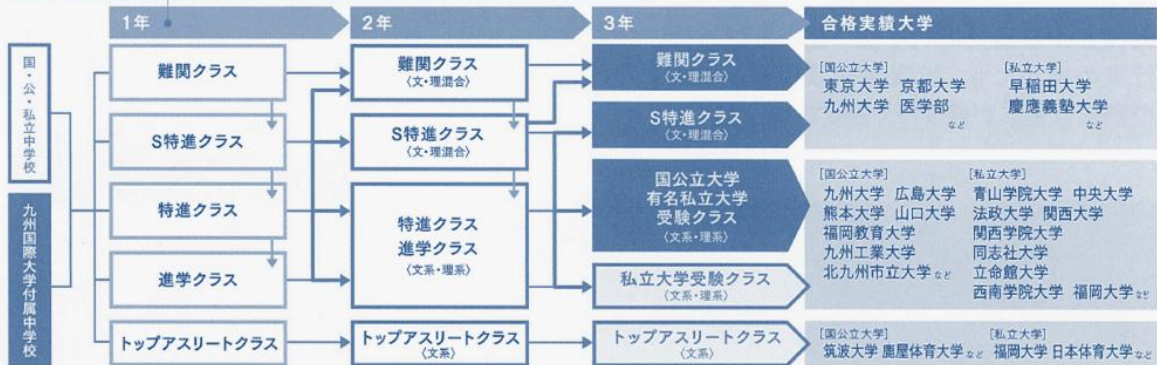
2. クラス編成

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S特クラス	S特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。Sクラスと難関クラスは九国付のツートップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
準特進クラス (3年生のみ)	国公立大学や有名私立大学の受験を視野に入れた充実のカリキュラムで、やる気をしっかりサポート。生徒の意思を尊重した指導で、更なるレベルアップを促し、志望大学への現役合格を目指します。なお2019年度の新入生からは、準特進クラスを特進クラスに吸収し、更なるレベルアップと進学実績の向上を目指します。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリート クラス	推薦試験で入学する生徒を対象に2クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他クラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

個性を大切にしたクラス編成

進路に対応したクラス編成

1年生は、入学試験の成績や本人の希望により、「難関クラス」「S特進クラス」「特進クラス」「進学クラス」に分かれます。



※進級時には、成績及び本人の希望に応じて、各クラス間の入れ替えがあります。
※準特進クラスは、平成31年度入学生より特進クラスに統合します。

クラス別特徴一覧

※1…特進クラス・進学クラスを希望した生徒でも特待生の採用基準に達していれば選抜されます。
難関クラスは全員「A特待(全額支給)」、S特進クラス上位者は「B特待(半額支給)」に該当します。詳しくは、P33をご覧ください。
※2…一部、スポーツ推薦入学者については、免除になる場合があります。

	特待生制度 ※1	7限授業	6限授業	朝の10分間 読書	クラブ活動	特別講座 (朝)	特別講座 (放課後)※2	夏期 特別講座	冬期 特別講座	夏季 学習合宿 勉強会	春季 学習合宿 勉強会	校外模試	海外研修 (短期)	海外留学 (長期)
難関クラス	●	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	▲	▲
S特進クラス	▲	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	▲	▲
特進クラス	—	●	—	●	▲	—	●	●	●	●	●	●	▲	▲
進学クラス	—	●	—	●	▲	—	●	●	●	▲	▲	●	▲	▲
トップアスリートクラス	▲	—	●	●	●	—	—	—	—	—	—	▲	▲	—

●…必修(全員) ▲…希望制(一部) —…該当しない

※ 2019年度の新入生からは、準特進クラスを特進クラスに吸収し、更なるレベルアップと進学実績の向上を目指します(3年生の準特進クラスは継続です)。

3. 進路サポート体制

(1) 大学入試改革・新テスト対策と ICT^(注5) 教育

本校では 2020 年度の大学入試改革を踏まえ、既に様々な準備や検討を進めています。各教科担当教員は数年前から説明会や各種セミナーへの参加を積極的に積み重ね、ディベート授業やアクティブ・ラーニングの実践は既に始まっています。

また、英検等の各種資格試験への対応も個別指導の充実を図りつつ、その合格実績を高めています。加えて平成 31 年度から、校内全教室に Wi-Fi を完備し黒板投影型プロジェクターを設置、さらには、新入生全員に個人専用のタブレット型 PC を所持してもらい、動画学習や調べ学習といった協働的な学びに活用します。現在、大学入試で徐々に導入が検討されているポートフォリオ（生徒の活動・実績記録）の作成や活用も可能になります。

(注 5) ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術 (Information and Communication Technology) の略であり、IT (Information Technology) とほぼ同義の意味を持つが、コンピューター関連の技術を IT、コンピューター技術の活用に着目する場合は ICT と、区別して用いる場合もあります。国際的に ICT が定着していることなどから、日本でも近年 ICT が IT に代わる言葉として広まりつつあります。

(2) 学習・進学サポート

各種 ICT 機器を活用しながら、いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立しており、放課後や長期休暇中の特別講座を実施し、それぞれの生徒の希望進路実現に向けての準備を万全にしています。また、クラスによっては、教科別の習熟度授業を展開し、きめ細かい学習指導を心掛けています。さらに、各種ガイダンスを実施して、勉強方法や受験までの心構え、受験動向などを早期から指導します。

(3) 入試対策

大学入試改革を視野に入れた「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。

(4) データに基づく進路指導

タブレット端末や Classi (クラッシー)^(注 6) システムを利用して、生徒と担任とのコミュニケーションを図りながら、生徒の成績を個別にコンピューターで管理・分析し、各々のデータに基づき数値やグラフと照らしあわせ、目標に向けて具体的な進路指導を展開します。各種データや情報は生徒や保護者に提供され、志望大学への指針を明確にして現役合格へと導きます。

(注 6) Classi (クラッシー)

Classi 株式会社 (クラッシー) は、ベネッセとソフトバンク (2016 年にソフトバンクグループに商号変更) の合弁会社であり、情報通信技術を活用した教育事業を手掛ける企業です。Classi は、ICT を使って教育現場をサポートするクラウドサービスであり、PC やタブレット、スマートフォンにも対応し、高校、中学校、小学校、専門学校など多くの教育現場で活用されています。

(5) 放課後・休暇中の学習フォロー

生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、休み時間や放課後の質問対応、自習教室の設置、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。生徒の習熟度や個性を熟知した教員が手厚く指導し、合格へと導きます。

(6) 関東・関西の難関大学視察

生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取り組みの一環として、1年次に関東・関西地域の名門大学視察を行っています。本校卒業生の先輩達に当該大学のキャンパスを案内されながら、ハイレベルな大学を実際に自分の目で見ることにより、受験へのモチベーションを高めます。また、視察により、各教員の指導力強化の意識をも高め、難関大学をめざす生徒達の学力向上へとつなげます。

[九州国際大学付属中学校]

1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。教育活動全体を通して、良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、豊富な体験型学習により個性豊かな人間性の涵養に努めること、また、基礎的な学力を習得させるとともに思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培い、その結果に立って進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げて、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。

2. 教育活動の特色

合言葉を「K点(目に見えない、思い込みによる自分の限界点)突破!」とし、成長の段階に応じて自立を促し、汎用的能力の高い個性豊かな生徒を育てます。

発展期

- 生徒の目標進路の実現を支えます。
- 周囲の支えに感謝し、自己理解を深め、K点を越えられる生徒を育てます。

[学習指導] ● 高い進路意識とともに、今の勉強が将来に直結していくことを自覚し、志望校合格に向けての学習に取り組みます。

[生活指導] ● 学業、行事ともに日々の学校生活を基礎として成り立っていることを自覚し、「出席し続けること」に強いこだわりを持つ意識を高めます。

[進路指導] ● 中学・高校・大学と進学し、その先にどんな人生を描くのかをしっかりと考え、自分の将来に向けて絶えず努力する姿勢を育てます。

充実期

- 精神的な成長を促し、真の学力向上を図ります。
- 生活面や学習面において自分自身を知り、その上で「自分づくり」「仲間づくり」に全力を注げる生徒を育てます。

[学習指導] ● 自分の弱点を分析し、現状を把握した上で、主体的な学習を継続する態度を養います。
● 受け身の学習から、自ら計画・実行する学習へ発展していく意識を高めます。
● 各教科のアドバイスに基づいた質の高いKTN(K点突破ノート)とともに、自主的・計画的な家庭学習の定着を図ります。

[生活指導] ● 挨拶、身だしなみ、時間厳守を徹底し、社会性とマナーを身につけます。
● 休まない・遅刻しないことを意識することで、精神的な成長と体力の向上を図り、苦境にもへこたれない強い人間を養います。
● 先を見通して計画的に取り組むために、今すべきことを自ら考えて行動する力を養います。

基礎学力定着期

- 中学生としての自覚を持たせ、自主的な生活ができる生徒を育てます。
- 友達の良いさを認め、その輪を広げ、互いに人間性を高め合う生徒を育てます。

[学習指導] ● KTN(K点突破ノート)の取り組みを通して、日々の授業の復習を行い、家庭学習の定着を図ります。
● 興味や関心があることを自ら調べ、考える習慣を身につけます。
● 「できる」体験を増やし、学習意欲の向上を図ります。

[生活指導] ● 早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣を身につけます。
● 挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間厳守など集団生活における礼儀・マナー・ルールを身につけます。
● 学校行事や体験活動を通して、皆で協力することの大切さや、気持ちを共有することの大切さ、また我慢強さを身につけます。



3. 教科目標

磐石の学習体制と豊富な体験学習を両輪に人間形成、確かな学力、体力の向上を培います。

科目	目標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身につけ、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学的な見方や考え方を育て、数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることができる授業を展開します。また、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得するためのドリル学習を充実させます。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習問題も多く取り組み、基本的な知識の定着と応用力の伸長を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせ、目的意識をもって実験・観察を行い、探求的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフ作成やレポート作成、論述などを取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育みます。
英語	英語学習を通して4技能(読む、書く、聞く、話す)を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝えたり、相手の考えや気持ちを理解したりするような、コミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルな視点から、異文化を理解し、尊重する態度を養い、かつ自国の文化をよりよく知り、次世代に継承していく精神を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた学級合唱の練習を通し、曲のイメージや各声部の役割を理解するとともに、協調の大切さを養い育てます。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに、豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・公正・克己心・集中力など、何事も耐えうる心と体を育てます。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を養います。
技術	パソコンの使い方や情報モラルを含め、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について学び、それらを適切に評価・活用する能力や態度を養います。
家庭	自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を見につけます。また、実習を通して手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことのできる実践的な力を養います。
道徳	道徳の時間や教科、特別活動など全ての教育活動の時間を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としての生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	さまざまな体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などに取り組みます。体験・学習発表の準備や校長面接のための自己分析・エントリーシート作成などの時間にも使います。机の上の学習だけでは得られない体験を通して、想像力・思考力・発表力を育みながら「未見の我」の発見に努めます。

4. 教育設計

充実した中学校生活を過ごし、未来をみつめ、より高い進路の実現を目指します。

(1) 高校自由選択制

中学生にとっては「高校入試」は大切な節目であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。本人と保護者が自由に高校を選択・決定して入試に立ち向かわせるという方針を取ります。併設校である付属高校への進学は、付属高校を受験すれば原則として保証されますが、よりハイレベルクラスへの合格を目指し、高い意識で受験できるよう支援していきます。

(2) 2つの高校入試で学力形成

これから生きる子どもたちには、「レベルの高い知識や技能」、「知識や技能を生かした思考力・判断力・表現力」、「知的関心や意欲、学ぶ姿勢」が求められます。子どもたちの将来を考えると、これらの基礎となる力を中学生のときにしっかり身につけておくことが大切と考えます。

中学校では、高校入試という関門を学力形成の絶好な機会ととらえ、「付属高校入試で知識・技能」、「公立高校入試で思考力・判断力」を育てるよう努めております。そのため、進路希望とは関係なく、2つの高校入試を受験することを基本として学習指導を進めます。

(3) 三冠王+準2Wクリア

英検等の検定は履歴書等に記載できる資格にとどまらず、どの程度まで学習できているかを示すバロメーターにもなります。英検・漢検・数検 3つの検定を学習の柱に据え、生徒全員が、3つの検定全てで中学卒業レベルに相当する3級に合格することを目指します(三冠王)。また、複数の検定で高校課程の能力を要する準2級や2級以上の合格を目指す「準2Wクリア」への挑戦も支援します。

(4) 複数教員での授業担当

本校では1つの学年の教科指導を、複数の教員が担当します。授業の内容やテストの問題、評価の仕方など、お互いが密に話し合いながら教科指導を進めます。また、3年生のいずれかのクラスの授業を担当することで、毎年、全ての教員が受験生を指導しています。教科会議で受験問題の分析や、指導内容や指導方法の検討、生徒一人ひとりの情報を互いに共有しながら、組織的・協働的に、受験指導・教科指導に取り組みます。

(5) 一年次二人担任制

生徒が「中1ギャップ」を克服し、スムーズに中学校生活に入っていけるよう、1年次に男女2人の担任を置き、生徒をきめ細かく観察、指導します。生徒にとって、相談など担任と気軽に話ができる環境となります。また、先生にとっても、生徒をより多面的に見ることができ、よりの確な指導が可能となり、いじめの起こりにくい環境、学習に取り組む快適な環境となります。

(6) 進路指導部

大学体験教室、職業体験教室・職業適性検査・Dream14、高校体験教室などの活動を通して、生徒に将来設計を描かせ、なりたい職業を通してよりよい社会の実現に寄与する、良き市民を育てます。また、実力テストや校外模試を通して受験への意識強化、競争意識を刺激し、事後指導をていねいに取り組み、生徒の第一志望校合格を支援します。





発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032